

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なみ

11月号
vol. 093



特集：都市のインフラ

2

Heart & Soul

特集：都市のインフラ

Heart & Soul 2

大衆演劇は、小さな劇場なので俳優たちとの距離が近く、入場しやすい値段と、誰にもわかりやすい物語で成立しています。

大阪市内には、大衆演劇を上演する小屋が10カ所ほどあり、西成区内に3つ、お隣の浪速区新世界には2つと、半数が両区に集中しています。私が幼い頃、親父の映画好きにつき合わされ、新世界をよく徘徊したのですが、その頃通天閣をお膝元とするこの町は、多くの映画館や芝居小屋があり、たくさんの人々がそぞろ歩きして、ずいぶん活気のある繁華街でした。



メディアの多様化や個人の嗜好化が進み、大衆文化が一極集中から分散しはじめ、自分たちの地域から映画、芝居小屋がどんどん消滅していききましたが、いまだ地域に咲く花として、あるいはこころの糧として、小屋に希望を託す人たちも多いのです。小さな劇団や地元の底力を応援したくなります。西成で活躍する2つの芝居小屋オーナーのお話と、鈴成座で公演中だった劇団「春陽座」三代目座長を紹介します。

インタビュー…佐々木敏明

「梅南座」は地下鉄四つ橋線花園町駅から徒歩6分ほどの場所にある。オーナー渡口壽子さん(76歳)は、70年代に、もともと鶴見橋にあった「鶴見グラウンド」で映画やお芝居の興行をしていた。15年ほど前現在の梅南1丁目の地に梅南座を開業し、大衆演劇の歩みを着実につくってきた人だ。「これまで大衆演劇の興行は15日が千秋楽(最終日)であったが、現在は30日になった。この仕事を始めた頃は、地場を取り仕切っていた極道さんたちとのやり取りもあり、身体を張ってやってきました」と、渡口さんはその当時の苦労を話してくれた。

筆者には、大衆演劇を見に来る人たちの多くは女性、しかも中年層というイメージをもっていたが、渡口さんは「劇団の座長の年齢や劇団の個性によっては、若いファン層も多い。劇団それぞれにより違ってくる」という。また「近隣の老人ホームや、介護サビスの利用者も芝居を見に来てくれる。観劇で心と脳を元気にして帰ってもらおうのが嬉しいです」と話し、「芝居には大きな力がある」と強調する。

入場料は1300円。それは小屋側の最低限の利益である。劇団側の収入は観客からの「花」つまり祝儀だ。これはショーなどの時、ひいき俳優に女性たちがたくさん1万円札をつなぎあわせ、役者の首にレイのようにかけたり、扇形にして胸元にさしにきたりする。毎回すごいお金が花になる(もちろん観客の少ない劇団は花も少ないのだが)。そんなおっかけの女性って一体どんな人たちなのだろう。渡口さんによると、何百万もする着物を着たおっかけたちもいるという。筆者の経験談である。劇団が千秋楽を迎えて次の巡業先に向かうとき、衣装や舞台道具を移動する。その引越しの手伝いをしていた人たちの中に、



筆者が相談にのったホームレス経験者がいた。仕事を探しながら手間仕事をしていたのだが、渡口さんは「舞台の引越しにも、そんな人たちがお世話をしてくれてはるんやね」と、ちよつと珍しそうに話したことが印象的だった。

渡口さんの幼年時代は、父親とともにフィリピンにいて、戦争の残酷さをたくさん見てきたという。「戦争はもういやだ」と話す。彼女と話していると、いつの間にか、芝居より私たちが直面している問題に返ってくる。韓国、中国、沖縄の現実など。それは渡口さんの辛く厳しい引上げ体験が大きく影響しているのかもしれない。それだけに、「人は自分を育てることを忘れてる。感謝を忘れ自然をも恐れなない。その結果、大きな災害や震災にも鈍感だ」と静かな怒りをあらわした。それは次世代が引き継がなければならぬことを語っている。

「劇団の公演は、興行師が仲介してスケジュールを立てる。劇団の人気や格は観客が決める。だから観客の動員はやはり各劇団の力量によって違う。それにしても、日本全国を渡り歩く劇団の人たちも大変だ」と思う」と気遣う。戦前戦後を体験してきた渡口さんの語りには「苦勞人」としての優しさがあらわれていた。この日の舞台は都京弥と藤乃かなの共演興行で、ショーとお芝居を覗かせてもらった。



梅南座

住所：西成区梅南 1-8-21
電話：06-6653-7800
昼の部 12:00 ~
夜の部 17:00 ~

渡口さんのインタビューには、友人である元府議の荒木幹雄氏に協力を得ました。有難うございました。



1.「梅南座」オーナーの渡口さんと友人の荒木さん
2. 梅南座前の通り。劇を見に来た人が集う。



BAINAN-ZA

2



HARUHI-ZA

1.春陽座の役者たち。舞台上笑顔をふりまく。
2.芝居の様子。きらびやかな照明で一層引き立つ。

「鈴成座」へは、地下鉄四つ橋線花園町駅を降り、鶴見橋商店街を西方向にまっすぐ5番街まで進む。キムチを売るお店を左折するとすぐ「鈴成座」だ。十数年前、旧芝居小屋「鶴見グランド」の跡地を、現在のオーナー伊藤秀則さん(41歳)の母親が買い取り、(株)ミネオフィスを母体とする「鈴成座」を開業させた。秀則さんは二代目だ。伊藤さんは芝居の幕間にお客に軽食などを提供する。その忙しい合間にお邪魔をした。

「鶴見商店街は、経済発展期の繁盛期と比べ、ちよつと寂しくなっています。」

伊藤：確かにこの商店街も寂れてきていますが、この周辺の状態はほかと比べると、まだましかもしれません。私たちの小屋に関しては、昔から比較すると、お客のかげりが見られます。これまでは、地域の人たちのファンが観客でしたが、最近は大衆演劇の小屋が増え、お客の分散化が起きています。

「当地と他地域から来る人たちではどちらが多いですか。」

伊藤：うちのお客の大半は他地域からです。それも減ってきているのが現状です。それと、従来見に来てくれていた人たちの高齢化も始まっていて、お馴染みさんの顔が見えなくなり、従来の客層が少なくなりつつあるようです。

「観客の大半は中年以上のしかも女性ですよ。伊藤：そうですね。劇団でも座長の高齢化があり、世代の交替が進んでいて、若手座長を見にくる若いファンの変化も見られるが、伝統芸能への関心が、若い人たちにあるかどうかは疑問です。全体としては少ないですね。」

「毎月違った劇団の入れ替わりがあります。とくにどんな劇団に人気を集めますか。」

「春陽座」は2004年に旗揚げされた。座長は初代座長が澤村新吾、二代目座長が澤村心、三代目座長は澤村かずまを看板としている。つまり劇団には3人の座長格が舞台上立つのだ。最近では初代新吾が退き、二代目心と三代目かずまを中心に世代交代してきている。

この日は鈴成座での前半の出し物が終わり、いき筋を小屋前で見送る劇団員たちが控えに入った頃、着替えに忙しい三代目澤村かずまさん(31歳)を、春陽座を代表してもらいインタビューした。かずま座長は、若い頃法善寺で板前修業をしていた。ある日友人が、芝居小屋で役者をしているのを見て芝居に魅力を感じたという。たまたまその時の座長が新吾さんで、それが入門の動機になっている。かずまさんが三代目座長となったのは昨年だった。どの小屋も中年女性でいっぱいというイメージですが、かずま：そうですね。中年女性が圧倒的に多いですが、劇場によっては多少違いがあると思います。この西成では男性も多いですよ。

「春陽座が「しゅんよう」ではなく、「はるひ」という名前の由来を。」

かずま：暖かい春の陽ざしをいっぱい浴びるようなお芝居、暖かい師弟関係なる劇団という気持ちで理由です。お客さんたちにとっては、春のようなうららかなさを感じてほしいと願ってつけられた名前なのです。

「お芝居やショーを見せてくれるのが大衆演劇の定番ですね。」

かずま：昔は3本の狂言を基本に見せていましたが、今は狂言に歌と舞踊ショーの3部構成が定着しました。どの劇団でもそれがパターン化してきています。

「座長が二人というのが珍しい。」

かずま：初代新吾が、二代目心に続いて私を三代目

伊藤：確かに人を呼び寄せる人気劇団はある。集客力は高いです。毎回大入り袋が出る劇団は、人気のパロメーターになるのです。そして、大きなトラックで各地へ移動し、舞台道具の製作や、かつら、衣装を大切にしながら劇団を維持している。どの劇団も役者も同じような苦しさを味わっていると思う。

伊藤さんは、小屋と劇団との違いはあるが、同じ空間で協働作業する仲間としての、劇団や役者たちと共に心配をしていた。

「人気の集まる理由って何でしょう。やっぱり女形？」

伊藤：最も大きな理由はやっぱり女形でしょうね。化粧の美しさや、着物の着こなしや優美さなどは、観客である女性にとって魅力を感じるものではない。もちろん演技力は必須ですが。

「今後、伊藤さんが「鈴成座」を続けていく上で重要なことっては何ですか。」

伊藤：これまで地域を中心にやってきましたが、客離れもあり、小屋も増えてきている。地域や商店街の人たちと様々な部分で協力し合い、とくに高齢化も進んでいるので、施設や介護ヘルパーさんなどの団体などと協力をして、高齢者の楽しみの場にもしていきたいと思っています。これまでも商店街の応援をもらっているのだから、それらの関係性を大事にしたいですね。

鈴成座

住所：西成区鶴見橋 2-9-1
携帯：06-4392-2201
昼の部 12:00 ~
夜の部 17:00 ~

春陽座

澤村心、澤村かずま、両座長を中心に花形滝川座長と、初代座長澤村新吾により、大衆演劇では珍しくお芝居、ラストショーの主演を毎日交替で演じる。

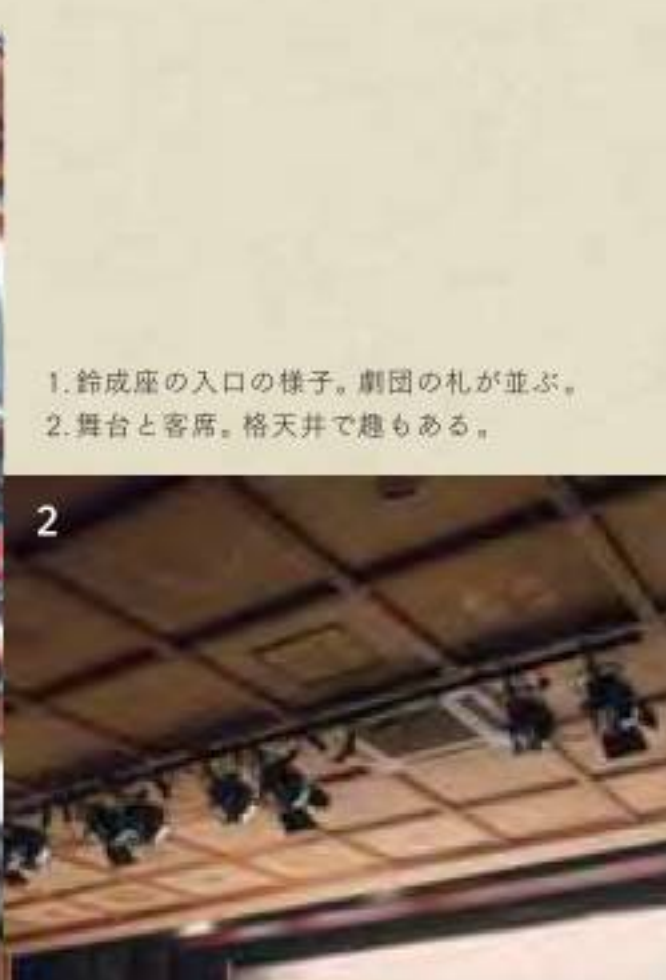
にししました。現在は二代目、三代目を中心に、プログラムの主演や役割を交互に演じたり、出番のバリエーションに工夫をしたりしています。

「複数座長制は、役者相互に切磋琢磨しながら、ファンには二枚看板として魅力ある劇団にすることだと思。しかしその分、役者にとっては相当な技量と熱意も要求されストレスも多いことですね。」

かずま：自分たち旅役者にとつての休みは1月に1回。そのほか年末の数日だけ。正月からすぐに出勤となるのが普通です。僕はそれほどストレスを持つほうではなく、芝居の中で解消する場面が多い。力を思い切りいれる部分と、力を抜きながら自分の負担を軽くしてやる部分があるのです。他劇団には芝居の中身、ショーの中身で勝負していくことしかない。それが僕のやり方です。あとは公演終了後、旅先でおいしい料理を食べること。これは魅力ですね。

「かずまさんが考える役者としての志を聞かせてほしい。」

かずま：10年たつてやっと一人前の役者です。誰からも感動してもらえない芝居づくりがしたいという望みですが、何よりも、芝居の知らない人たちが芝居を見に来てほしいです。現在のように芝居小屋が増え、お客さんが分散し、今の料金ではこれから互いに難しいような気がします。



1.鈴成座の入口の様子。劇団の札が並ぶ。
2.舞台と客席。格天井で趣もある。

SUZUNARI-ZA



通じて出会ったのが始まりです。同じ西成出身で、すぐ友達になり、地元でよく飲みました。それからしばらくして、音楽と一緒にやることになり、そのころ彼が知り合いとイギリスでカレー屋を始めるとい話をしていたんですね。でも、知り合いの仕事の関係で一度立ち消えそうになったとき、一緒にやらないかと高島さんに声をかけてもらった。やるんだったら地元西成で。調理関係はしたことがなかったもので、一年ほど飲食店で経験しながらカレーづくりを勉強しました。

松本…そんな風には全然見えませんでしたよ！カレーも



No.16

人と場と動きをバトンタッチで橋渡しする「リレーなびトーク」。今回は西成出身、カレー屋を始めた辻さんと、西成大好き、長屋でサロンを開く松本さんの、地域でのチャレンジについてお伺いしました。若い人の見方、いろんな世界を見てきた人の見方など、そこには「オモロイまち」西成のエッセンスが詰まっている、そんな話題で盛り上がりました。

プロフィール

松本恵実

西成区玉出で、長屋「Ydeサロン」を運営。みんなの居場所としてぼちぼち開きながら、商店街でのイベントをはじめ、地域を動き回る。子どものことや高齢者のことなど、西成の元気につながる取り組みを実践中。

辻大智

西成区出身、地元の音楽仲間と萩之茶屋でカレー屋「薬味堂」で日々カレーづくり。最近では、グラフィティ(ペイントによる壁面アート等)のマップづくりを企てたり、知り合ったアーティストの作品をお店に置いたり、来た人が楽しめるネタも仕込み中。



とてもおいしかった！

辻…開店して4カ月ほどなんですが、カレーの味にもやっぱり納得いかないこともあったし、まだまだ試行錯誤です。最初は、西成のおっちゃんたちの感じ方、受け取り方を直に知らなかったもので、それに合わせながら、徐々に今の感じですよ。自分でも日々進化してるなと思ってるので、オープン当初に来てくれた人たちにもう一度味わってほしいな。

松本…ほんとカレーおいしかったし、私もおっちゃんたちと味覚が合ってるのかも！

辻…初めの1カ月はポロクソ言われることが多かったんですよ。めっちゃへこんでましたけど(笑)。ここ、喫茶店の白木屋さんや、この界隈のお店の方と話してるときに、そんなこともつぶやくと「みんな好き勝手言うけど、興味津々気にかけてくれてるってことよ。自分がおかしいと思うもんを出しとったら大丈夫やから、安心しい」って言われて。周りにすっごく助けられました。地域のつながりっていいなって、そのとき思いました。

とでもおいしかった！

辻…松本さんが開いている「Ydeサロン」というのは、どういう場所なんですか？

松本…地域がひとつの家族のようになればなと思って、長屋を借りていろいろしています。書道、英会話教室、イベント。日曜日には徳島の野菜販売もしています。他にこんなものやらないと思うことは次々と出てくるので、いつそのこと「玉出世焼きスペース」にしようかな(笑)。

辻…世話焼き、雰囲気ぴったりですね。始められて、どれくらいですか？

松本…去年の10月22日……。あ、この前、記念日でした！忘れていました。なので、一年です。西成の玉出で活動し始めたのは、2011年です。そのころ、地域で事業を起こそうと補助金の申請を思い立ち、それをきっかけに地域の方々とつながったんです。結局、その事業は不採用でしたけど。

辻…でも、新しいこと始めるときって、縁が必要ですよ。

松本…初めのうちは、よそから来た私のやっていることを、様子見されていました。し

松本…西成って最近、外国人増えてますよね。

辻…うちにもちよこちゃん外国の方が来られるんですけど、宿が安いからという人の方が多いと感じてます。彼らに西成が労働者のまちとかを説明しても、「どこが普通と違うの？」といった感じで返されることが多いですよ。自分もバックパッカーで旅していましたが、世界にはいろんなまちがあるし、日本と世界のスラムのイメージは違う。逆に、西成という先入観がないので、ぼくたちの気づかない魅力を教えてくれます。つい最近だと、このへんって大正から昭和にかけての古い長屋もすぐ近くにあって面白いエリアだねと、このまちを選んで写真撮りにきていました。

松本…海外から遊びに来た人たちにアンケートを取ってみても面白いかもしれない！

辻…僕は、海外の人にもっとたくさん来てほしいなって思ってるんです。ベジカレーもひとつのきっかけです。

松本…日本って、ベジタリアンが食事できるところって、とても少ないんですよ。

ばらく経つと、クレームが出ることもあって。だったら自分もこの場所に居つけばいいんじゃないかと思つたところに、長屋を見つけたんです。

辻…いい出会い！

松本…今は、長屋のそばにある9店ほどの商店会に入れてもらえることになったので、提案しやすくなりました。この前は、似顔絵イベントを商店会として実施しましたし。今度は、「商店会が地域に何ができるだろう」というテーマの勉強会を開くのですが、もつと商店街を、地域の人に来てもらえるような場にしていきたいです。

辻…地域を巻き込むのは、エネルギーもアイデアもいりますよ。例えば地元で長年やっている問題は見えてくるけど、まあいいかと落ちてしまつてしまつともあるし。ぼくも萩之茶屋商店会に入っています。だから、もつと何か考えられたらいいな。

松本…ところで、辻さんはどうして薬味堂をされることになったんですか？

辻…薬味堂オーナーの高島さんと、実は玉出！で音楽をき交い楽しめるまちになれると思います。海外から集まってくる人も、まだ今は、なんばや天王寺に行くための宿泊ツールのような、たとえばタイのカオサンのような、宿泊と観光が繋がったまちとかもいいな。ここもいろんな人が楽しめる場所にしたとひそかに妄想しています。地域との関係ももつと育てながら、これから頑張ろうと思えます！

取材協力：白木屋(萩之茶屋)



カレー屋 薬味堂
〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋2-2-10
TEL: 06-6641-9021
URL: http://yakumido.com
11:00-14:30 (LO)、17:00-20:30 (LO)
どてかれー 600円/ベジかれー 500円/あいがけ 700円

ナイスな仲間たち

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.08 西成製靴塾



小林寛明 講師

モニター実習はじまる

西成製靴塾では後期から「モニター実習」がはじまります。「自分が作りたい靴を作りたように作る」ではなく、お客様がもてる靴をご提供する。そのことの意味を学生に学んでもらうのがこの実習のねらいです。

「お客様」との関係を大切に

ありがたいことに、今年度も「足」を貸していただけの有志、すなわちモニターの定員を満たすことができました。採寸や希望を聞き取りに行く面談で学生はモニターに制作費(1万円)を請求します。なので、今までの靴制作とはちがう緊張関係が生まれます。



採寸の現場をのぞくと…

モニターとの面談を当教室で行うというので、採寸の現場をのぞいてきました。「緊張感を持って…」と釘をさしてみたものの、なかなか和気あいあいと商談(?)は進んでいきませんでした。ま、これもお客様との接し方のひとつ。モニターのご希望に合ったモノが納品できればよいのです。半年後を楽しみにしたいと思います。

(若松)

西成製靴塾

西成企業連内 担当：若松
電話：06-6561-9990
E-MAIL：wakamatsu@n-net.gr.jp



い湯かげん

「水俣学」に触れた旅

先日、熊本学園大学が水俣市に設置している「水俣学研究センター」を初めて訪れた。「水俣学」というのは、医師の故原田正純さんが提唱されたもので、足尾鉾毒事件の田中正造の「谷中学」に做ったのだろう。肝心なことは、水俣病の現地に入り込み、その実相を深く掘り下げるところにあり、「セツルメント」を想像したら理解しやすい。

センター長の花田昌宣さんに案内してもらって、茂道など患者が多発した漁港に行った。茂道は、背後に山地が迫る陸の孤島のよ

うな所で、水俣病発生の際には車も入れない状態だった。天草辺りで生活できなくなった漁民が移住してできた部落で、貧しさは並大抵ではなかったらしい。「朽ちかけた家に隠れるように横たわる患者たち…そして意外なことに『帰ってくれ』という診察拒否の言葉。新米の医師にとってこの通常ならぬ事態を呑み込むのにはばらく時間がかかった」と原田さんは記しておられる。「水俣学」に込めた原田さんの遺言は、多分、茂道でのこの「通常ならぬ事態」が原点だったのだろうと想像した。

花田さんから、1954年頃か

ら起こった当時まだ奇病とされていた水俣病の惨事は、孤立し、周辺から差別もされていたこの孤村で、身内からの迫害など壮絶を極める悲劇をも伴ったことを教えてもらった。茂道に生まれた胎児性水俣病患者の坂本しのぶさんともお会いすることができた。水俣病と言うと川本輝夫、坂本しのぶと連想するほどシンボリック存在だった。一般財団法人水俣病センター相思社も視察した。前身は「水俣病を告発する会」だが、代を継いで半世紀以上続いていることに感心した。

ボク達は、いま、西成に「隣保館」を再生しようと試みており、事業の豊富化を求めている九州の旅だったが、「水俣学」を知ることができたことは貴重だった。「現地に入り、深める」という回路は隣保館も水俣学も同じだ。西成隣保館は「社会的企業」という手法だが、水俣学研究センターは、大学が出資し、水俣市も旧施設を安価な賃料で協力していた。

「もやい直しセンター」という水俣病対策でできた施設も訪問した。もやい(舩)直しとは、船と舟を繋ぐことで港に停泊する、つまり互助を作り直すという意味からくるもので、同和対策の人権センターに酷似した施設だ。また、NPOや企業組合、生協等で活動する人々とも交流したが、水俣病コミュニティとでも言うべきインフラが確固としていいることを感じた。水俣学研究センター、相思社、もやい直しセンター、水俣病コミュニティ等々、またひとつ隣保館を深めることができた気がする九州の旅だった。



(株)ナイス代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[田岡秀朋]先日、浪速「得」区こと芦原橋アップマーケットに参加しました。昼間からうまい地ビールとこだわりの食べ物を堪能。特にスモークビーナッツがたまらん。次回は11月16日またいこかなあ。



[近藤彩]季節はすっかり秋ですね。暖かくしようと思いついに「着る毛布」を導入しました。家の中ではムクみたいにもこもこです。



[四井恵介]このところ毎月末、データ通信制限と戦ってます。重たいファイルのやりとりが原因か、はたまた何かが悪さしてるのか。月が変わるとストレスなくなるので、また忘れてしまうの繰り返し…



[飯田沙保里]風邪をひいて2週間ほど…久しぶりに咳で声が出なくなりました。声が出ないと不便です…



枝葉末節

『女性が輝く？』



hidarmakiです。
稲の収穫に詠む
刈り行きて
刈田がわれの
作業痕

誉めて、媚びて、おだてて、すり寄ってと、さんさん女性をネタにして話題を集めようとするかのよう、あまりに恣意的とも見られるプランがあらわれた。その名称を「すべての女性がかがやく社会づくり推進室」という。安倍首相が、女性の活躍できる支援策を協議し、そのための関連法案を作っていくその作業室なのだそう。

成長戦略を標榜する安倍改造内閣の閣僚のうち、5人の女性が入閣した。自民党役員を含む6人になる。女性が輝く社会の実現をうたう安倍首相にとっては、女性閣僚を登用し女性の活用を実践したつもりかもしれない。実際、この女性閣僚や役員たちのすべては、女の輝きを存分に発揮し続けている。

花のまろのFLOW

今月の花:

シャコバサボテン

花言葉「美しい眺め」「冒険」

「波乱万丈」

葉の形が海にいる「シャコ」に似ているからつけられました。色は、白や黄色、ピンクなど鮮やかに咲きます。



またひとりいなくなりました。一生懸命に働く45歳のひとでした。働いていた公園から姿を消して、一週間後、私あてに手紙がきました。便せんにぎつしり4枚、過去に起こした事件の告白とごめんなきの謝罪でした。そんな手紙より、もう少しがんばってこの町にいてほしかった。

(なんばひとみ)

輝きの一例である。高市総務相や稲田朋美政調会長ら自民党議員たちは、男世界を体現するナチス・ドイツのかぎ十字をシンボルとする団体と写真撮っている(9/11)。山谷えり子国家公安委員長は、在日韓国・朝鮮人排除を目的とするこれまたヘイトスピーチで知られた在特会幹部と写真撮影をし(9/18)、疑問視されると「ザイトクカイって何？」など公安とも思えぬ発言をしている。松島みどり法相は、参議院でのストール着用事件(10/1)を起こし、自身の選挙区で似顔絵入りの団扇を配布し、公職選挙法への抵触疑惑を起こし(10/15)、法務大臣の資質を笑われた。小淵優子経産相が主宰する政治団体の、政治資金収支報告書に大きな差額が発見された(10/17)。そして看板である「すべての女性がかがやく社会づくり推進室」を担ってデビューした有村治子女性活躍担当にいたっては、「夫婦別姓制度」や「中絶」に反対の立場をとり、聞くべき意見への不寛容さを指摘されている。

不適切発言などは男議員の特権で、ところが、いまどきの女性議員は男なんかには負けてはいない。汚濁に輝いても確然としている。女性閣僚全員が、何がしかの醜聞にもめげずに活躍中なのだ。男性議員も顔色無しというか、おばちゃんのあつかましさの輝きに閉口の態で、本来国会でそれぞれが大問題であるはずなのに追求の手も甘い。

ところで「すべての女性がかがやく社会」の話である。私たちが選挙で選んだ光輝く女性たちが、すでにそのテーマを体現していることは上述した。活発で積極的で確信的な女性たち。実は「すべての女性がかがやく社会づくり推進室」の将来モデルを、彼女たちに演じさせるはずであった。だがその光輝くさまは、改造内閣後ほどなくして薄汚れていかがわしく変質した。品性をもたない輝きであり、知性すら感じられない汚れ具合のひどい輝きになってしまった。そして、この輝きをアピールした人たちは、すべて日本政府を代表する閣僚や議員でもある女性政治家たちであった。この改造内閣は、恣意的にこれからの女性の輝くゆくえを、短期に実現させようとしていたふうに見える。モデルとなる彼女ら女性閣僚たちの活躍で。だがこの「推進室」は、こ

ピースのつぶやき

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。



「いとしのユタツ♡」
朝夕めつきり
寒くなっちゃいました。
もうそこまで
冬が来ています。
わたしのベッドが、
夏布団から冬布団に
かわりました。
ふわふわして
身体はあったかい、
けど何故か心は寒い。
早く私の心を
温かくしてくれる、
冬限定のヒーローに会いたい。
早く私を、
コタツムリに変身させて
欲しいワァーンわん!!

赤井まゆみ



思ったら! にしなりカレンダー

「何に出会える!? 秋の西成」編

みんなで子育てを考えよう

講演会「発達途中のトラウマが子育てに与える影響」

地域で子育てに学ぶ講演会。子どもと暴力をキーワードに、その理解と回復についてみんなで深めます。

日時：11月20日(木) 18:30-20:30

講師：ヘネシー澄子さん

場所：西成区役所4階会議室(西成区1-5-20)

問合：NPO子育て運動えん

TEL：06-6645-7778(こどもの里内)

みんなでコラボ企画!

「ひと花プロジェクト&花屋Bon リースをつくろう!」

ひと花プロジェクトはあいりん地域を中心とした単身高齢者などの社会的つながりづくりを演出しています。11月に花屋Bonとのコラボでクリスマスに備えたリースづくりに挑戦します。

日時：11月28日(金) 13:00-

参加：無料 ※事前登録が必要

場所：ひと花センター(西成区花園北1-2-19)

TEL：06-6649-7890

FAX：06-6649-7891

※興味のある方は、ひと花センターまでお問い合わせください。

大衆劇場いろいろ(11月)

「梅南座」

澤村謙之介「劇団澤村」

住所：西成区梅南1-8-21 TEL：06-6653-7800

「鈴成座」

黒潮幸次郎「黒潮劇団」、黒潮次朗「黒潮劇団」

住所：西成区鶴見橋2-9-1 TEL：06-4392-2201

「オーエス劇場」

葵政次「劇団鯨」

住所：西成区山王2-14-20 TEL：06-6649-3503

「朝日劇場」

里見直樹「里見劇団進明座」

住所：浪速区恵美須東2-1-26 TEL：06-6633-4553

「浪速クラブ」

桜京之介「劇団花吹雪」

住所：浪速区恵美須東1-3-7 TEL：06-6632-2629

※入場料、時間等は、各劇場にお問合わせください。

※目安は、大人1,500円ほど。昼の部は12:00から、夜の部は17:00からで、3時間ほどです。

タイ式ヨガでリフレッシュ

「ルーシーダットン」@あしたの箱

あしたの箱スペースで開かれる、月一回木曜日の午前中ルーシーダットン(タイ式ヨガ)のクラス。「自己整体」とも言われ、それぞれの身体本来の動きやバランス感覚を高めることを目指しています。そのため無理なポーズや瞑想的なものではなく、初めての方でも身体の固い方でも大丈夫、代謝UPとしなやかなボディを目指してよい汗をかきましょう。

日時：11月13日(木)・12月18日(木)

11:00-12:00

参加：1回1,000円(入会金不要)

場所：ギャラリーあしたの箱(西成区岸里1-6-7)

インストラクター：伽瑜(Kayo)

問合：ギャラリーあしたの箱

MAIL：info@ashitanohako.com

WEB：http://www.ashitanohako.com/hako/

あとがき

今回の表紙は商店街で見つけた魚(笑)。もう一つの候補に、小中一貫校への統合で廃校となる萩之茶屋小学校の「鼓笛隊」がありました。初めて地域内をぐるりとするラストパレードの一枚だったのですが、個人の顔が写っているので掲載を断念。子どもたちの50年間の思いは小中一貫校に引き継がれるか?ぜひ、みなさんにも生で見てもらいたいです。

(平川)

なび11月号(vol.93)

発行日：2014年11月10日(創刊日：2007年1月1日)

発行：株式会社ナイス

発行人：代表取締役 富田一幸

印刷：有限会社前山企広

住所：大阪市西成区長橋3-6-33 電話：06-6563-1156

E-mail：info@nice.ne.jp

url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：佐々木敏明

編集：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト：hidarimaki

デザイン：近藤彩、高橋静香

表紙の写真：「商店街の楽しげな軒先」鶴見橋商店街で撮影

